



路 政 僧

を、統治と被統治との兩者に於ける蠶は、理想國家の生活に非ざるへし、是を思ひ彼を想て我國體の精華に及ぶとき、誰か我等の幸福を喜ばざるものあらむ、我が精華に依て全世界を風靡し、世界の和平を期するは我國民天與の使命、國民の自覺を喚起する必要切にして亦大。

▽ △
世界到るところ、國體政體の基調に

惑亂しつゝあるのとき、我は皇位繼承

昭和戊辰の新年を迎へ、上、皇室彌

昌へ榮へて大内山松の緑もいと深く

下、民生の消長を思はせ給ふ大御心、

長くも賢し、此聖代に生を享けたる吾

等國民は、新たなる歳を迎へて更始一

新、聖慮に答へ奉る覺悟が肝要。

の大典を擧げむとす、君臣相和する立

憲君主國、我の外絶えて世界に其の比

を見ず、見よ、内亂續發し父母妻子の

行衛を山河に尋ね、財を兵燹に失つて

塗炭の苦に泣く隣邦國民を、更に眼を

歐土に轉して専制はれ國是とする某國

▽ △
我れ世界の和平を望み、我より更に

三國軍縮會議を主催せむとさへ傳へら

るゝのとき、米國は五年繼續による海

軍擴張案を議會に提案したと傳へら

る、反時代非文明的の計畫と可評、曩に

決裂した軍縮會議後の建艦政策は平和

論者の看視圈内に屬したが、流石に英

は巡洋艦二隻の建造中止を聲明したに
反して米の此態度、現有勢力維持の趣
旨にしても、武器製造業者乃至は製鋼
業者の機嫌取り案としても、英米爭覇
の準備としても、海軍擴張夫れ自體は

野蘇敦打破の暴行爲、我れ米國の爲否
な世界平和の爲に惜む、富裕を誇るヤ
ンキーも誇るへき所に誇れ、吾人は祈
る議會に於て否決せむことを。

▽ △

忘れられむとする頃に運動する後藤
子、老軀を挺して訪露の途に上る、是
も極東平和の爲、日露協約と言ふも夫
れは形式上のこと、眞に協約の實を擧
ぐるに非されば極東の平和は維持し難
い、殊に滿蒙に於ける露國の策動は、

我と彼の關係特に緊密、子の訪露に依
つて之が根本的協調を爲し遂げ得ば、
子の爲否な極東平和の爲に亦妙。
例のお祭的策動に終らざらむことを
望むや切。

▽ △

東洋の平和を期するとき、廣東の再
政變傳へられ、次へ鮮人迫害の不祥事
相起る、内亂勝手にやるが可い、併し
ながら官製排日の手を換へた鮮人迫
害、之だけは許すことは出来ぬ、政府
大に自覺する所あるや否や滿蒙交渉に
墮して對策を誤る勿れ、嚴肅なる沈黙
は能でない。

▽ △

帝國議會開會され、世は政治季節に
入る、議會は解散か非解散か、問題、
金融恐慌來に依つて偶然に政權を得た
政友會内閣、第二黨たる地位に鑑み、
議會を解散して信を天下に問ふのが憲
政の常道と言ふ、併しなから純理に即
し度くも、其れが出来ないのが政界の
常態、在野黨にも解散回避者乃至は與
黨通謀者が多數潜在する筈、茲に於て
政友會が是等の者を切崩すか乃至は強
制缺席せしむるか、其の結果が問題を
解決する、が併し立憲治下に陰謀をや
らせ度ない。

民政二二三に對する政友一八九、新
政其の他の小數黨の向背、デリケート
な形勢を造る、多數黨が小數黨の支配
に従ふ不合理も除き度い、ソーなれば

政府の採るべきは解散の一途あるのみ、政友會も考慮するが可い。委員長は

在野黨に獨占され、首相は答辯の矢面に立つて不得手を示し、政策の不履行

を責められて後解散するよりは、開會劈頭解散するのが政友會に爲である、

蓋し第二黨たるの純理からしても、政策不履行の攻撃に對し辯明の餘地ある

現在からしても、解散を斷行すること

が得策、夫れが政友會の生くる途、徒に躊躇逡巡する勿れ。

研究会の動搖に依つて形勢變化した

貴族院、特權階級者の政治的行動特に國民の監視を要するが、新團體の行動

は、停頓状態に在る貴族院改革に奈邊まで波及するか頗る疑問、しかし世は普選のとき、特權階級者よ疾く覺醒し

て解散なき政治機關を自發的に改造せよ、平民は切に夫れを祈る。

▽ △

國鐵計畫の變更、新線の追加やら既定線工事の繰上げ、建主改從、いつの内閣でも弄ぶ鐵道政策、吾人は當局の

能力を疑ふ、交通に即しない鐵道政策は無い筈なのに、内閣の交送する毎に

變る鐵道政策、之に依つて政黨々勢の消長に影響あると思ふのは錯誤、夫れ

に在野黨が燒餅的攻撃をやつてゐるから笑はせる世は自動車の世界、國民は

蒸氣機關車の索引力なんかを喜で居ない、政府黨も在野黨もモー少し覺醒するが可い、しかし我が道路政策に此魔

手の伸びざるを喜ぶ。

▽ △

内遞兩省亦水利事件の主管に付争ふ、いつに爲つても絶へないものは權

限争議、しかし積極的權限争議なるだけ或は國家の爲かも判らぬ。行政組織

の根本改革に手を觸れずして特定事件の主管を解決せむとする所に無理がある、河川を離れて治水利水は存在しない筈、更に利水は電氣に限つた譯でない、いかに遞信省の役人でも此位なこ

とは判りそうなもの、行制審議會、早く此種の意見を却下して國家の利益と爲ることを審議するが可い。

▽ △

鐵道省、鐵道と自動車との交通事故

に慌て出ず、遅かつた、道路との平面交叉を閉却した罪、早く踏切を廢止するが可い。



西久保東京市長、随分頑張つたが、市政滯滞を理由として遂に追出さる、

茲に到るまで市會の亂闘數日、流血の慘を見て漸く片附く、居据らんとするものと追出さむとするものとの争、兩者とも裏面には政黨が策動して居る、言はゞ政友民政の争に不過。

市長不信任の決議は市會の越權行爲、等々、と今更法律論でもない、市民を代表する市會から選出された市長、信任されずば潔く退出すが當然、市會の解散を申請し、却下されてから退出

すなそは世の擊劍士の爲に惜む。

市政の滯滞、何人も疑はざるところ、就任一年一ヶ月、短期と言はゞ言ふもの、市長の就任に方つて覺悟した一つの仕事位は出来る筈、之を爲し能はざる西久保氏の退却、市民は餘り惜しくも思はない。

西久保氏を惜まずして不信任案を喜ばざるところに、政黨争の存することを證明す、革新會の多數を以て憲政黨色濃厚な氏を市長にしたのが間違、此不純を矯正せんとするのが政友會、血を血で洗ふ争としても、其の志す所は必ずしも咎めない、併しながら夫れは、後任市長を政友會—政友會系の手に收むることを是認するのではない。政友會は憲政會の爲したところを潰滅

すれば夫れて足る、政黨の東京市に非ざる限り市長は市民の市長である。

市制布かれて三十年、政黨の傀儡たる市議を選出して、政黨の東京市を形成する如きは、市民の自治無能力の發露、今日のことある亦市民の自業自得の罪と言ふべし、官選都長官説の生ずる所以、東京市民の自覺を祈るや切。

後任市長には中正會ではないが、政黨派に超越し人物手腕兼備の秀才を望むや切、政友會、之に手を觸るべからず、若し横車を押せば、再び市長争奪の醜を招來する必定、其に依る自治權破壊の罪は郷等の責に歸す、世は昭和の三年普選のときなるを自覺せよ。